

令和4年度第3回入試改善検討会議 会議録

日時 令和5年3月8日(水)
午後3時から午後4時30分まで
場所 埼玉県県民健康センター大会議室C

出席委員 堀田香織委員、岩田彦太郎委員、長沢正貴委員、丸山巧委員、
佐々木敏夫委員、廣澤健一委員、栞原章和委員、宮尾孝委員、
土橋徹嘉委員、鈴木香織委員、小熊誠委員、高岡豊委員、日吉亨委員、
清水雅己委員、田邊広昭委員、金子功委員、白倉克典委員、
牛久裕介委員(代理)、田中邦典委員、遠井学委員(代理)、
宮本典行委員

欠席委員 小柳光春委員、小林和夫委員、大森由美委員、加藤哲也委員

1 開会

2 委員長挨拶

3 協議

(1) 会議の公開・非公開について
公開とする。

(2) 会議録の署名委員
第3回は、廣澤委員と日吉委員とする。

(3) 資料説明
事務局より

(4) 協議内容 (○委員長 ◇委員 ▲事務局)

○ 報告書案はあくまで原案であるため、本日の検討会議で修正していく。報告書案は4点あるが、1点ずつ確認していく。

○ 1点目は、選抜の特色化についていかがか。

◇ 2行目の入試日程について、できるだけ遅い日程にしたとあるが、中学生の学習保障の観点からも、さらに遅くすることを検討して欲しい。

▲ 中学校の卒業式前に発表すること、コロナで十分期間をとること、私学の入学金の関係があることからこの日程となっている。現状でもできるだけ遅い日程としている。

◇ 高校としては、新年度の準備や3月の行事予定を考えて、入試日程の考え方

を検討いただきたい。

- ◇ 中学校としては、遅い時期の方がありがたい。コロナ前の日程に戻してもらいたい。
- 報告案に関して、修正の有無についていかがか。
- ◇ 協議のテーマに、日程のことまで含まれているのか。
- この検討会議では、日程の具体を協議する場ではないが、報告案について日程のことについて入れるかどうか、例えば、「日程について検討する」といったことを入れるかどうか。
- ◇ 平成24年度入試から、それ以前と比べてできるだけ遅い日程にしたことについて評価できるということについて言っており、現在のコロナで繰り上がっている日程のことについて言っているわけではない。日程を遅くするという御意見は事務局で受け取っていただく必要はあるが、この報告書案としてはこのままでよいと考える。
- このままでよいという意見であるがいかがか。
- ◇ 入試日程について遅くすることを検討していただければ報告書はこのままでよい。
- では、この部分については、このままの記載とする。他にはいかがか。
- ◇ 報告案を見て、枠組みはこのまま、中身は変更する必要があるというように感じた。現行の入試制度が良いという意見がこれまでたくさんあったが、現行の入試制度は特色を出せていないため変えていく必要があるという書き方は改めるべきではないか。
- ◇ 表現はこのままで良いと思う。一定の枠組みの中でという話もしているので、その枠組みをしっかりと定めればよい。
- ◇ 中学校としても、高校で求める生徒像の違いがわかり、現行の入試制度は評価できる。現行入試で十分特色が出せている。
- ◇ 報告案の捉え方として、見直しを図っていく必要があるということではないか。
- ◇ より特色が出せるの「より」が気になる。特色化は必要だが、通学範囲の限りもあるので、大きく特色化しすぎる必要は無いと感じる。
- 表現として、「～一定の枠組みの中で、引き続き選抜基準や選抜方法の見直しを図るなど各高等学校が特色を出せるような～」とするのはいかがか。
- ◇ 前段で「一方」とあるが、否定的な「一方」は適切ではないと考える。
- 「一方」を、「また」や「更に」とし、後半部分を「進路選択をしていくことは重要である」でいかがか。
- 特に意見がないので、このように修正する。2点目、選抜方法の在り方についてはいかがか。

- ◇ 思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力等とあるが、普段の授業で評価することも難しく、入試で評価することも難しい。ここの文言を報告書に入れるかどうか。また、(2)に「自己アピール」と記載があるが、自己アピールありきではないか。ミスリードしないように議論する必要がある。
- ◇ 意欲を評価することはいかがなものか。意欲ばかりを評価するという書き方はよくない。
- ▲ 現行の入試でもそうだが、生徒の良いところを評価することは重要と考えている。多様な生徒がいるので、様々な観点で評価することが必要である。
- ◇ 前半の「選抜方法」、後半の「入試制度」とあるが、文言について整理したい。
- ▲ 指摘のとおり、文言を整理する必要がある。「入試制度」ではなく、「選抜方法」とすることで提案する。
- 事務局から提案があったが、この件についていかがか。
- 意見がないので、ここは提案のとおりとする。他にはいかがか。
- ◇ (2)の自己アピール等ということだが、一つの例ではあるが、限定的すぎないか。「新たな資料を導入する場合には」としてもよいのではないか。
- 自己アピールという文言を入れることについて、御意見があったがいかがか。
- ◇ 文言に自己アピールと入れると、自己アピールが独り歩きする可能性がある。
- ◇ この会議は方向性を示す場であるが、ここだけ具体的である。
- 「学校外の活動について新たな資料等を導入する場合には」とすることについて、事務局はいかがか。
- ▲ 参考資料ではあるが、国の部活動の地域移行に関する検討会議の提言では、「調査書のみならず、生徒による自己評価資料や面接・小論文などを通じて多面的に評価する」と、自己アピール以外も例示している。
- 例えば、(1)はそのままとする、(2)は「自己評価資料、面接・小論文等の選抜方法について検討する必要がある」、(3)「新たな選抜方法を導入する場合には、評価方法を明確にする必要がある」、(4)はそのままとする、の4点はいかがか。
- ◇ (4)だけ「制度」となっている。
- (4)の「制度」を「選抜方法」に変更することでいかがか。
- 異論がないようなので、このように修正する。3点目、実施時期についてであるが、前回も特に意見はなかったが、この報告案でよいか。
- ◇ 「中学校」とあるが、特別支援学校や義務教育学校からの出願もあるので、「中学校等」としてはどうか。

- 指摘のとおりと考えるがいかか。
- 異論がないようなので、このように修正する。4点目、その他についていかか。
- 異論がないようなので、このとおりとする。このあと、報告案を事務局で修正していただき、委員長が確認した後、教育長報告を行う。委員長の確認については、一任ということによいか。
- 異論がないようなので、このとおりとする。

4 諸連絡

5 閉会

署名

委員長

堀田 香織

署名委員

廣澤 健一

署名委員

日吉 亨